



▲今年はキッチン雑貨を扱うメーカーも多く出展。チタン製の軽すぎる鍋などが注目を集めた



▲DIYキット「コンクリートデコ」。石のようで軽い。シンプルなのでどんな部屋の空間にも馴染む



▲シルバークレイのアクセサリDIYキット。工具以外にもシルバー925のネックレスチェーンが付属

大を狙う熱意が伝わってきます」。

今年は「実用性」「愛される」「クリエイティブ」「熟練」の4つのキーワードを掲げるが、素材自体がエコなもの、寄付になる商品、リサイクルしやすい、廃棄にやさしいなどグッズになにかしらの「エコ要素」が含まれたものが人気である。

4日間の来場者数は9361人に上った。

### ハンドメイドへと原点回帰

出展社数は世界9カ国約350社、500ブース。長年出展していなかった企業を含め、新規出展企業

は前年に比べ6割以上にのぼった。今回はアフリカからのパビリオンが初出展したが、国交のある国を中心にワールドパビリオンを一層充実させる方針だ。「台北ギフトショー」は国際展覧会として位置付けています。世界各国が保有するハンドメイド企業を支援したい。なぜならギフトショーこそ職人技の魅力を訴求するのに最もふさわしい場所だからです」

台湾ならではのハイレベルな独自技術は見逃さずある。ギフト・ノベルティを手掛ける15社の最新アイテムを紹介する。

### 斬新なDIYキット

#### コンクリートが身近に

会場で一目立ったのは、ユニークなDIYキット商品である。業務用コンクリートを製造するビー・エントナープライズ（台北市）が小売りに向けに「コンクリートデコ」を開発。素材と型がセットで販売され、シーズナルギフトに人気という。素材はセメント、ホワイトセメント、石膏の3種類。動物や天使の型はクリスマス用のオーナメント向けに、ペン立てやキャンドルホルダーのような立体的なものも製作できる。作り方も簡単で、粘土状のセメントを流し込

#### 廃棄スマホをアクセに

パソコンやスマホは貴金属の宝庫だ。廃棄されたスマホなどから金属を回収し、特殊技術で金や銀に再生処理できる。貴金属の回収業者のクレイウェイ（台南市）は独自技術を用い、純度99・5%のパウダーシルバーを開発、アクセサリのDIYキットとして商品化した。パウダーといっても粘土状で、型に押し込んで乾燥させ、あとは家庭のガスコン

## 台湾国際ギフト・文具見本市2019

## ストロー問題でエコに拍車

## 独自技術やブランド発信の場に



▲「ノンプラスチックライフ」をテーマにキッチン雑貨などを提案する Zenzhou Social Enterprise。「タピオカティーが人気の台湾ではプラスチックストロー問題を機にエコ商品に関心をもつ若者が増えている」

「ギフトショー台北」が4月18日から21日まで台湾世界貿易センターで開催された。今回で第73回目を迎えるが、「数年前からギフトショーを取り巻く環境が大きく変わった」と台湾貿易センターの責任担当者は語る。特にこの5年でハンドメイド、エコ製品、一個から対応できるカスタマイズ商品が増えた。台湾メーカーはOEM製造と併行して自社ブランドを立ち上げ、その新製品発表の場としてフェアを活用する。また台湾では育成制度の充実で、イラストレーターを職業にする若者が増えている。企業タイアップが盛んになったのも近年の特徴だ。

ここ数年、会場での成約率は約100万ドル（約1億3000万円）。中国をトップに、日本、米国が入り替わりで続く。日本ブースの

出展社数は毎年18〜20社で推移するが、日本企業の総代理店を務める台湾企業が増え、会場内で日本製品が占める割合は増加している。

「ニーズの多様化でフェア自体の規模は縮小しましたが、出展社、バイヤーの声を拾いながら様々な取り組みに挑戦しています。その結果、商品やサービスの質を含め、出展企業の質が高くなったという声が増えました。例えば、数年前まで、USBやパソコン周辺機器関連の企業を集めた特設会場『テックトレンドデイ』がギフトショーの目玉でしたが中止しました。ITグッズ専門のメーカーと勘違いされてしまう。もっと販路を広げたいという出展側からの要望が多かったからです。バイヤーだけでなく、出展側のニーズも変化しています。自社技術を誇りに、販路拡





▲ひっくり返すとカップに。今年の干支「豚」をデザイン。1つが約7万円と高額



▲ボタンの花がデザインされたカップ。つぼみから咲いていく四季を4つのカップで表現する

ている。「器は日常のアート。ひっくり返しても楽しめるければアートとはいえない」。価格は1万円から3万円以上が平均で、中国やドバイの企業から注目を集める。



▲「羽型のペン」。ブラックはフルカーボン、カラーはガラスファイバー

ポタン JWCARBON(台北市)は2016年に創業した。カーボンファイバー(炭素繊維)やガラスファイバー(ガラス)を製造し、OEM生産に対応する。「台湾に自社工場があるため、市場価格より安く提供できると思う。名刺入れであれば300個で100円以下にできる場合もある。これから海外展開に積極的に取り組んでいく」と担当者。カーボンファイバーはガラスファイバーに比べ、強度があつて軽い、カラーバリエーションやコスト面などでガラスファイバーが利用しやすい。ノベルティやギフトに人気なのが「羽根型のペン」で、手に馴染

創業60年の老舗工業ブラシメーカー・Dubbe(台北市)は、国の軍隊「中華民国国軍」に靴磨きセットや歯ブラシなどを卸す信頼のブランドである。欧米、台湾では紙ストローや木製ストローに人気が出始め

### 特殊技術でエコストロー

み、書きやすい。ブラックはカーボンファイバー、カラーものはガラスファイバーを使用する。好きな場所に名入れができる。カーボンファイバーを取り扱う企業は台湾にも数社あるが、部分ではなく全てがカーボンファイバーを使用する企業は他にない。またカラフルなガラスファイバーを取り扱っているのも現在のところ同社だけだ。



▲右は鋼を傷つけない「ポットブラシ」。左は繊細なデザインのストロークリーナー。特殊技術で繊細だけど頑丈。ヤギの毛を使用

ていることから、同社の特殊技術を用い、ストローとストロークリーナーの2種類を目玉商品とした。「ストロークリーナーは、やわらかい毛が抜けず耐久性があります。詳細は教えられませんが、なぜ毛がステンレスに巻き付くのか。そこがオンリーワンの技術です」と社長は語る。特殊技術に関わらず、ブラシの埋め込みがとても丁寧だ。毛はスムーズに動くのに、引っ張っても抜けにくい。一つ一つロゴ入りのかわいい巾着入りで、プレゼントに最適だ。

### 動きを楽しむオルゴール

木製のオルゴールやインテリア雑貨を手作りで製造するシャンモン・エンタープライズ(台中市)。新商品は自分で組み立てる木製オルゴールのDIYキットだ。「予想以上にギフト利用が多い。なかでもやさしい音



▲「オルゴールDIYキット」(上)。板からパーツを取り外して組み立てる。音に合わせて動くオーナメントに癒される(下)



▲自分で組み立てて完成させる3DアートのDIYキット

色をかなでるオルゴールとあつて結婚祝いや出産祝いに人気がある」と担当者。同社は木材に精通し、木の種類が豊富だけでなく、数々の特殊技術をもつ。例えば長方形のオルゴールの四つの角は、単に木板を釘で繋ぐのではなく、木材とゴムを融合した特殊板で丸みのある角を演出。組み合わせた色は付属の絵具で好きな色に塗って楽しめる。DIYキットの販売価格は2500円。

### ソフトウェアに頼らないLED

テノンアート(台北市)は、社長でカードボード・アーティストのカルバン・リン氏が手掛ける紙製の立体アートを卸販売する。動物や妖精

### 720度の視覚体験

企業名は1300。光に透ける美しい白磁陶器を製造する企業だ。フランスの有名デザイナーから直接声がかかるなど、世界で今最も注目されている白磁メーカーといつても過言ではない。その理由の一つが光に透ける真っ白な磁気。もともと美しく仕上がる釜の温度は企業名である

### 「ここ」しかない新技術

がテーマで、今にも動き出しそうな躍動感のある表現が多く女性の魅力している。商品は全てハンドメイド。家業の印刷業を受け継ぎ、新業態として企業名と同じブランド「テ

ノンアート」を立ち上げた。紙に精通したリン氏は、作品がくずれないようにオイルさえはじく防水効果のある特殊紙を選んだ。3Dソフトウエアに頼らない方法で、平面から立体にできる仕組みを自ら編み出した。その魅力について「心に伝わる温かみが全くちがう。組み立てて頂ければわかる。カードボードの手触り、レーザーカットの側面、ピースの差し込み口がぴったり合う。細かな部分にも絶対に納得頂ける」と自信たっぷり。組み立て式の立体アートは市場に突出しているが、ここまでの完成度と表現力が高い商品は他にないだろう。現在40種類を展開。プレゼントギフトにも人気を集めている。

1300度。1300度以上で仕上げるのが通常だが、同社の原料と配合に最も適した温度だという。そして「高台まで楽しめる」720度のデザインは特許取得済み。縦横上下、どの角度から眺めても楽しめるデザインで、めずらしさは底にある。例えばバレリーナの上半身がモチーフの器。その底にはバレリーナの足が繊細にデザインされ





▲「フォトシール」は欧米で人気



▲タイブランド「ミスターリーフ」の名刺入れとスマホケース。葉のデザインを計算して配置する



▲日本企業に人気があった名刺入れ。2000円前後



▲日本企業が注目する木製カバーのノート

にも台湾ヒノキを主体としたオリジナルアロマオイルも手掛ける。

## エコな製造プロセス

### 植物タンニンの証明付き

世界に向け、皮革の輸出入業者の「ゴールデン・レザー（新北市）」は「インディアン」を商標に皮革製品のOEM・ODM生産を行う。牛革を天然植物で染める「ベジタブルタンニンなめし」に一早く取り組んだ企業として皮革業界で名を馳せる。日本からは銀行や建設業のノベルティ需要が多いという。同社の製品にはイタリア・トスカーナ産植物タンニン鞣し革協会の品質保証タグが付くのも魅力の一つだ。さらに植物性の



▲日本バイヤーに人気なのは右側のシックなカラー

染料でありながら豊富なカラーバリエーションに対応できること、イタリア製の本革を使用していることも人気の理由である。ペンケースで1500円前後。名入れも可能だ。

### 収納できるネットバッグ

ストローやラップなど、プラスチック製品を減らそうという活動は世界的に広がっている。しかし洒落た代替品がないとプラスチック製品をなくすのは難しいだろうというきっかけで設立したのがZenzhou Socia Enterprise（台北市）。再利



▲収納できるネットバッグはめずらしい

用できる蜜蝋が素材のエコラップなど6シリーズを展開している。

エコラップは2サイズで販売価格が700円から1300円とコスパが高い。貝殻をイメージしたネットバッグは、広がり過ぎず、モノが落ちないバランスを考え抜き、5キロまで耐える。台湾でのエコの関心について「クラウドファンディングで資金を募ったところ、1000世帯以上から日本円約750万円が集まった。弊社の取り組みに共感頂いている。さらなる商品開発に投資したい」と語った。

### 落葉をアップサイクル

タイのエコブランド「ミスターリーフ」の総代理店モア・クリエイティブ（台北市）。原材料は全てチークの葉で特殊加工を施す。全商品はチェンマイ工場でハンドメイドされる。動物性のものを一切使用しないため、ビーガンにも人気が高いブランドである。タイでは家具チークの木を使用するが、葉は山に破棄される。その量が膨大で社会問題になっているという。広報担当者は「製造工程、素材の全てにおいて、徹底的に配慮したブランドが世界に広がることを願っている。このブランドはその代表である」と語った。

### 女子高生をターゲットに

ラベルシール市場の競争が激化し、ニッチな市場を狙うべく、スタックブックシールに挑戦するリミント（新北市）。写真や作品などを劣化させる「酸」を含まないアシッドフリー、糊要らずの用紙を

### 木材は省エネ資源

#### 小ロット歓迎の木製雑貨

台中市にある木城工場は、6種類以上の木材からスマホケースや名刺入れ、スピーカーなどのオリジナル製品を製造する。細かな要望にも対応できることから、発注の7割以上がOEM、3割が小売り向けの自社製品である。取引先は主に台湾企業

使用し、若手デザイナーとコラボしたデザイン作品を販売する。人気があるのは機能性商品で、はさみいらすの両面テープや四隅にシールを貼り写真を留める「フォトシール」など。OEM生産やオリジナルデザインにも対応。日本の女子高生に向けて発信したいと意気込む。

### プロ目線で厳選した材木

1950年創業、木材の卸販売業・ホクシンダ・エンタープライズ（高雄市）は、OEM向けの新業態に挑戦している。商品は全てハンドメイドで木材の仕入れから製造まで、一貫生産できることが強みになっている。「木材には固さ、色、香りの3つの楽しみ方がある。木材は7種類あり、その商品に見合った木材を提案しながら開発できる。さらに50年

だが、タイと日本市場の進出に向けて余念がない。今年に日本の家具店からドアストップのOEMを依頼され、本格的に日本市場への進出が決まった。

エコが注目されるなか、木材を素材にした製品は多く、会場内でも競合は多い。なぜ同社が選ばれるのかは「3D最新技術を柱とし、要望通

以上続く材木屋が母体のため、高品質な素材を安く仕入れられる。安定供給できるのもメリットの一つ」と3代目社長。これまでの木製商品にはなかったデザインを目指したという新作は、カバーが木製のノートや、持ち手をデザインしたまな板、ラック、ゲージタグ、アクセサリーなど。他にも台湾ヒノキを主体としたオリジナルアロマオイルも手掛ける。